

の同意を得て275号線の移設工事も着手できる予定と聞く。

Q 築堤工事などで地元の企業も加わり、技術の継承を図るべきでは。

A 町内業者にも参画出来るような条件整備をしながら欲しいが、最近は参画しているという情報もある。

▼消防費

Q 災害時非常用食料品に「救缶鳥」というパンの缶詰があり、購入後2年で回収し、飢餓難民、被災地に届けるプロジェクトがあるが検討している。

A 今後の備蓄品にどのように配備していけるか検討する。

▼教育費

Q 就学援助について、修学旅行費を旅行前に交付できないか。

A 旅行会社へ支払うものなので、この費用だけ単独で前払いはできない。

Q 学習支援サポーターについて、小学校低学年の支援

で学力テストの結果等に反映できるのか。

A 小学校低学年に2人配置。学習のつまづきを解消して基礎学力をつけ進級につなげていく。学力向上に向けては、中学の数学の教師が小学校の算数の授業に参加する取り組みを町独自で行い、国語指導巡回教員も小学校に配置する。今後はあらゆる教科に道教委からの教員増を受けて取り組んで行きたい。

Q 学習支援サポーター2人で月額報酬予算が325万円と低く、働くモチベーションが上がるか。

A 一日6、75時間で年間213日を予定している。報酬は町での共通単価で対応している。

Q 教育執行方針の中で、教職員への法令遵守は大切と述べているが、教職員への研修体制は。

A 原則は校長から教職員へ対応。普段の職員会議や長期休みの始まりや終わりなどで対応するよう教育長が申し入れをしている。

Q 道徳教育の変化に対応する研修機会は。

A 26年度から道徳で新た

な副読本を使う予定。国からの指導テキストを活用し理解を深めていく。

Q シニアリーダーの人数と活動内容は。

A 17人。独自の活動の他、子ども会キャンプの援助や深川市での子ども会リーダー研修の支援なども行っている。

Q 子ども会の加入率と、補助金交付の方法は。

A 加入率は75%。助成金は全体で70万円。会員数への分配方式で助成している。

Q アートの森の施設は虫がひどかったが現在の状況は。

A 内側から窓のさんに発泡スチロールを詰めて入らないように防いでいる。

Q 抜本的な駆除は。

A ヘリカムシの駆除という裏山から完全に除去するしかなく、効果的駆除は苦慮している。

Q いじめは学校だけではなく、いろいろな活動の場で発生するもの。社会教育活動において子ども会への指導などは実践されているか。

A いじめという言葉は使っていないが、リーダー研修会等で人を思いやる心などの指導、助言をしている。

Q 女性団体等の組織がこう着し活動の停滞が見られる。団体を必要と考えるなら、どのように活性化してまちづくりに活用していくのか。

A サークルや任意団体等の人数は減っているのが実情。団体の長と検証していきたい。また、長年続いているサークル、団体はハードルが高く、素人が入って行きづらい。代表者の中から意見を聞き取っていききたい。

Q アートの森の草刈り整備について、地元から「高齢化しており、面積も広がっているので地域では難しい」という声があるが対応は。

A 区の方々と検討させていただく。

Q 開拓記念館耐震工事の期間は。

A 26年9月中旬に閉館して工事をする。

Q 開拓記念館の耐震工事と併せ、レイアウトや見せる工夫等のプランはあるか。

A 1階の吹き抜け部分が耐震性を満たしていないとの判定になり、既存柱の間に耐力壁を増設し耐震性を確保する。中は収蔵庫として改修し、展示エリアは改修しない。

Q 芸術鑑賞授業4回を計画しているが、客の入込み数の試算は。

A 25年は平均205人であった。

Q 鑑賞授業の自衛隊の公演の出演料は。

A 出演料は無料。リハールも含め長時間になるため40人弱の隊員の方の昼食や、チラシの折込み料を予算化している。

Q 文化活動団体は子ども少子高齢化で、文化の伝承が衰えていくばかりだ。工夫をして加盟団体を増やし、活性化していくよう取り組んで欲しい。

A 今後工夫しながら会員増に向けて取り組んでいく。

Q 学校の教室に、十津川産のひのき材の本棚が設置されるようだが、無償か有償か。

A 有償である。昨年、ひのきの木の寄贈を受け生徒が大変喜んだ状況があった。この度、十津川村で本棚を製作していることを聞き、本町で学級文庫を置く予定もあり購入する。ひのき材を用いることで母村との絆が深まるよう